



AutoSupportの詳細

ONTAP 9

NetApp
July 22, 2024

目次

AutoSupportの詳細	1
AutoSupportについて	1
Active IQデジタルアドバイザーとAutoSupportについて	1
AutoSupport メッセージが送信されるタイミングおよび場所	2
AutoSupport でイベントトリガー型メッセージが作成されて送信される仕組み	5
AutoSupport メッセージの種類とその内容	6
AutoSupportサブシステムの表示	8
AutoSupport のサイズ割当量と時間割当量	8
イベントトリガー型 AutoSupport メッセージで送信されるファイル	8
AutoSupport メッセージで送信されるログファイルです	9
週単位の AutoSupport メッセージで送信されるファイル	9
AutoSupport OnDemand がテクニカルサポートから送信指示を取得する仕組み	10
E メールで送信される AutoSupport メッセージの構造	11
AutoSupport の重大度のタイプ	12
AutoSupport メッセージの説明を取得する	13
AutoSupport を管理するためのコマンド	13
AutoSupport マニフェストに含まれる情報	15

AutoSupportの詳細

AutoSupportについて

AutoSupport は、システムヘルスをプロアクティブに監視し、ネットアップテクニカルサポート、社内のサポート部門、およびサポートパートナーにメッセージを自動的に送信します。テクニカルサポートへの AutoSupport メッセージの送信はデフォルトで有効になりますが、メッセージを社内のサポート部門に送信する場合は、適切なオプションを設定し、有効なメールホストを指定する必要があります。

AutoSupport 管理を実行できるのはクラスタ管理者だけです。Storage Virtual Machine (SVM) 管理者には AutoSupport へのアクセス権はありません。

AutoSupport は、ストレージシステムの初回設定時にデフォルトで有効になります。AutoSupport は、AutoSupport が有効になってから 24 時間後にテクニカルサポートへのメッセージ送信を開始します。この間隔を 24 時間よりも短くするには、システムをアップグレードまたはリバートするか、AutoSupport 設定を変更するか、システムの時間を 24 時間以外の時間に変更します。



AutoSupport はいつでも無効にできますが、常に有効にしておく必要があります。AutoSupport を有効にしておくこと、ストレージ・システムに問題が発生したときに、迅速に原因を判断し解決できます。デフォルトでは、AutoSupport を無効にした場合でも、AutoSupport の情報が収集されてローカルに格納されます。

AutoSupport の詳細については、[NetApp Support Site](#)を参照してください。

関連情報

- ["ネットアップサポート"](#)
- ["ONTAP コマンドの詳細については、AutoSupport の CLI を参照してください"](#)

Active IQ デジタルアドバイザーと AutoSupport について

ONTAP の AutoSupport コンポーネントはテレメトリを収集し、分析用に送信します。Active IQ デジタルアドバイザーは AutoSupport からデータを分析し、プロアクティブなサポートと最適化を提供します。Active IQ は、人工知能を使用して潜在的な問題を特定し、ビジネスに影響が及ぶ前に解決を支援します。

Active IQ では、クラウドベースのポータルとモバイルアプリを通じて、実用的な予測分析とプロアクティブなサポートを提供することで、グローバルハイブリッドクラウド全体でデータインフラを最適化できます。SupportEdge との契約が締結されているネットアップのすべてのお客様は、Active IQ が提供するデータ主体の分析情報と推奨事項を利用できます（機能は製品やサポートレベルによって異なります）。

Active IQ でできることは次のとおりです。

- アップグレードを計画する。Active IQ では、ONTAP の新しいバージョンにアップグレードすることで解決可能な問題が環境内で特定されます。また、アップグレードを計画する際に役立つ Upgrade Advisor コンポーネントも用意されています。

- システムの健全性を表示します。Active IQ ダッシュボードで、健全性に関する問題が報告されるため、これらの問題の解決に役立ちます。システム容量を監視して、ストレージスペースが不足しないようにします。システムのサポートケースを表示します。
- パフォーマンスを管理Active IQ には、System Manager に表示されるよりも長時間にわたるシステムパフォーマンスが表示されます。パフォーマンスに影響を与えている構成やシステムの問題を特定します。
- 効率性の最大化Storage Efficiency 指標を表示し、より多くのデータをより少ないスペースに格納する方法を特定します。
- インベントリと構成を表示します。Active IQ は、インベントリおよびソフトウェアとハードウェアの構成に関するすべての情報を表示します。サービス契約がいつ期限切れになるかを確認し、サービス契約を更新してサポートを継続するかを確認します。

関連情報

"ネットアップのマニュアル：Active IQ Digital Advisor"

"Active IQ を起動します"

"SupportEdge サービス"

AutoSupport メッセージが送信されるタイミングおよび場所

AutoSupport は、メッセージの種類に応じた宛先にメッセージを送信します。AutoSupport がメッセージを送信するタイミングと場所を知ると、Eメールで受信するメッセージまたはActive IQ（旧 My AutoSupport）Web サイトに表示されるメッセージを把握するのに役立ちます。

特に指定がないかぎり、次の表に示す設定はのパラメータです `system node autosupport modify` コマンドを実行します

イベントトリガー型メッセージ

修正措置を必要とするシステムでイベントが発生した場合には、AutoSupport からイベントトリガー型メッセージが自動的に送信されます。

メッセージが送信されたとき	メッセージの送信先
AutoSupport は、EMS のトリガーイベントに回答します	<p>で指定されたアドレス <code>-to</code> および <code>-noteto</code>。（送信されるのはサービスに影響する重要なイベントのみ）。</p> <p>で指定されたアドレス <code>-partner-address</code></p> <p>テクニカルサポート（該当する場合 <code>-support</code> がに設定されます <code>enable</code></p>

スケジュールされたメッセージ

AutoSupport は、定期的に複数のメッセージを自動的に送信します。

メッセージが送信されたとき	メッセージの送信先
毎日（デフォルトでは、午前 12 時からチェックする 必要がありますログメッセージとして送信される）	で指定されたアドレス <code>-partner-address</code> テクニカルサポート（該当する場合 <code>-support</code> がに 設定され <code>enable</code>
毎日（デフォルトでは、午前 12 時からチェックする 必要がありますパフォーマンスメッセージとして送 信されます） <code>-perf</code> パラメータはに設定され <code>true</code>	<code>partner-address</code> で指定されているアドレス テクニカルサポート（該当する場合 <code>-support</code> がに 設定され <code>enable</code>
毎週（デフォルトでは、日曜日の午前 0 時から午前 1 時までの間に送信されます）	で指定されたアドレス <code>-partner-address</code> テクニカルサポート（該当する場合 <code>-support</code> がに 設定され <code>enable</code>

手動でトリガーされるメッセージ

AutoSupport メッセージは、手動で送信または再送信できます。

メッセージが送信されたとき	メッセージの送信先
を使用して、手動でメッセージを送信します <code>system node autosupport invoke</code> コマンドを実行しま す	を使用してURIを指定した場合 <code>-uri</code> のパラメータを 指定します <code>system node autosupport invoke</code> コマンドを実行すると、メッセージがそのURIに送信 されます。 状況 <code>-uri</code> を省略すると、で指定したアドレスにメッ セージが送信されます <code>-to</code> および <code>-partner</code> <code>-address</code> 。このメッセージは、の場合はテクニカル サポートにも送信されます <code>-support</code> がに設定され ます <code>enable</code> 。

メッセージが送信されたとき	メッセージの送信先
<p>を使用して、手動でメッセージを送信します <code>system node autosupport invoke-core-upload</code> コマンドを実行します</p>	<p>を使用してURIを指定した場合 <code>-uri</code> のパラメータを指定します <code>system node autosupport invoke-core-upload</code> コマンドを実行すると、メッセージがそのURIに送信され、コアダンプファイルがそのURIにアップロードされます。</p> <p>状況 <code>-uri</code> では省略されています <code>system node autosupport invoke-core-upload</code> コマンドを実行すると、メッセージがテクニカルサポートに送信され、コアダンプファイルがテクニカルサポートサイトにアップロードされます。</p> <p>どちらのシナリオでもそれが必要です <code>-support</code> がに設定されます <code>enable</code> および <code>-transport</code> がに設定されます <code>https</code> または <code>http</code>。</p> <p>コアダンプファイルのサイズが大きいため、メッセージはで指定されたアドレスに送信されません <code>-to</code> および <code>-partner-addresses</code> パラメータ</p>
<p>を使用して、手動でメッセージを送信します <code>system node autosupport invoke-performance-archive</code> コマンドを実行します</p>	<p>を使用してURIを指定した場合 <code>-uri</code> のパラメータを指定します <code>system node autosupport invoke-performance-archive</code> コマンドを実行すると、メッセージがそのURIに送信され、パフォーマンスアーカイブファイルがそのURIにアップロードされます。</p> <p>状況 <code>-uri</code> では省略されています <code>system node autosupport invoke-performance-archive</code> メッセージがテクニカルサポートに送信され、パフォーマンスアーカイブファイルがテクニカルサポートサイトにアップロードされます。</p> <p>どちらのシナリオでもそれが必要です <code>-support</code> がに設定されます <code>enable</code> および <code>-transport</code> がに設定されます <code>https</code> または <code>http</code>。</p> <p>パフォーマンスアーカイブファイルはサイズが大きいため、で指定したアドレスにメッセージが送信されません <code>-to</code> および <code>-partner-addresses</code> パラメータ</p>
<p>を使用して手動で過去のメッセージを再送信した <code>system node autosupport history retransmit</code> コマンドを実行します</p>	<p>で指定したURIだけに送信されます <code>-uri</code> のパラメータ <code>system node autosupport history retransmit</code> コマンドを実行します</p>

テクニカルサポートによってトリガーされるメッセージです

テクニカルサポートは、AutoSupport OnDemand 機能を使用して、AutoSupport からのメッセージを要求できます。

メッセージが送信されたとき	メッセージの送信先
AutoSupport が新しい AutoSupport メッセージを生成するという送信指示を取得したとき	で指定されたアドレス <code>-partner-address</code> テクニカルサポート（該当する場合 <code>-support</code> がに設定されず <code>enable</code> および <code>-transport</code> がに設定されず <code>https</code>
過去の AutoSupport メッセージを再送信するという送信指示を AutoSupport が受け取ったとき	テクニカルサポート（該当する場合 <code>-support</code> がに設定されず <code>enable</code> および <code>-transport</code> がに設定されず <code>https</code>
コアダンプファイルまたはパフォーマンスアーカイブファイルをアップロードする新しい AutoSupport メッセージを生成するという送信指示を AutoSupport が受け取ったとき	テクニカルサポート（該当する場合 <code>-support</code> がに設定されず <code>enable</code> および <code>-transport</code> がに設定されず <code>https</code> 。テクニカルサポートサイトにコアダンプファイルまたはパフォーマンスアーカイブファイルがアップロードされます。

AutoSupport でイベントトリガー型メッセージが作成されて送信される仕組み

AutoSupport では、トリガーイベントの処理時にイベントトリガー型 AutoSupport メッセージが作成されます。イベントトリガー型 AutoSupport メッセージは、対応処置が必要な問題を受信者に通知します。問題に関連する情報だけが含まれています。含めるコンテンツと、メッセージの受信者をカスタマイズできます。

AutoSupport では、次のプロセスを使用してイベントトリガー型 AutoSupport メッセージを作成し、送信します。

1. EMS がトリガーイベントを処理すると、EMS は AutoSupport に要求を送信します。

トリガーイベントは、AutoSupport のデスティネーションとで始まる名前を含む EMS イベントです `callhome`。プレフィックス。

2. AutoSupport により、イベントトリガー型 AutoSupport メッセージが作成されます。

AutoSupport は、トリガーに関連付けられたサブシステムから基本的な情報とトラブルシューティング情報を収集し、トリガーイベントに関連する情報のみが含まれたメッセージを作成します。

各トリガーには一連のデフォルトのサブシステムが関連付けられています。ただし、を使用して、追加のサブシステムをトリガーに関連付けることもできます `system node autosupport trigger modify` コマンドを実行します

3. AutoSupport は、で定義された受信者にイベントトリガー型 AutoSupport メッセージを送信します `system node autosupport modify` コマンドにを指定します `-to`、`-noteto`、`-partner-address` および `-support` パラメータ

を使用して、特定のトリガーに対する AutoSupport メッセージの配信を有効または無効にできます `system node autosupport trigger modify` コマンドにを指定します `-to` および `-noteto` パラメ

特定のイベントについて送信されるデータの例

。 storage shelf PSU failed EMS イベントによって、必須、ログファイル、ストレージ、RAID、HA、プラットフォームサブシステム、ネットワークサブシステム、および必須サブシステム、ログファイル、およびストレージサブシステムからのトラブルシューティングデータ。

将来の対応として送信される AutoSupport メッセージに NFS に関するデータを含めることを決定します
storage shelf PSU failed イベント：の NFS のトラブルシューティングレベルのデータを有効にするには、次のコマンドを入力します callhome.shlf.ps.fault イベント：

```
cluster1::\>
system node autosupport trigger modify -node node1 -autosupport
-message shlf.ps.fault -troubleshooting-additional nfs
```

を参照してください callhome. プレフィックスはからドロップされます callhome.shlf.ps.fault を使用する場合のイベント system node autosupport trigger (CLI の AutoSupport イベントおよび EMS イベントで参照されている場合)。

AutoSupport メッセージの種類とその内容

AutoSupport メッセージには、サポートされているサブシステムに関するステータス情報が含まれてい AutoSupport メッセージの内容を把握しておく、E メールで受信したメッセージまたは Active IQ (旧 My AutoSupport) Web サイトに表示されたメッセージを解釈したり、応答したりするときに役立ちます。

メッセージのタイプ	メッセージに含まれるデータのタイプ
イベントトリガー型	イベントが発生した特定のサブシステムに関するコンテキスト依存データが含まれるファイル
毎日	ログファイル
パフォーマンス	過去 24 時間以内にサンプリングされたパフォーマンスデータ
毎週	設定データおよびステータスデータ

<p>メッセージのタイプ</p>	<p>メッセージに含まれるデータのタイプ</p>
<p>によってトリガーされます system node autosupport invoke コマンドを実行します</p>	<p>で指定した値によって異なります -type パラメータ :</p> <ul style="list-style-type: none"> • test いくつかの基本データを含むユーザトリガー型メッセージを送信します。 <p>また、を使用して、テクニカルサポートからの自動応答Eメールが指定したEメールアドレス宛てに送信されます -to オプション。AutoSupport メッセージが受信されていることを確認できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • performance パフォーマンスデータを送信します。 • all 各サブシステムのトラブルシューティングデータを含む、週次メッセージと同様の一連のデータを含むユーザトリガー型メッセージを送信します。 <p>通常、テクニカルサポートからはこのメッセージが要求されます。</p>
<p>によってトリガーされます system node autosupport invoke-core-upload コマンドを実行します</p>	<p>ノードのコアダンプファイル</p>
<p>によってトリガーされます system node autosupport invoke-performance-archive コマンドを実行します</p>	<p>指定された期間のパフォーマンスアーカイブファイル</p>
<p>AutoSupport OnDemand によってトリガーされます</p>	<p>AutoSupport OnDemand では、新しいメッセージまたは過去のメッセージを要求できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 新しいメッセージは、AutoSupport 収集のタイプに応じてにすることができます test、all`または `performance。 • 過去のメッセージは、再送信されるメッセージの種類によって異なります。 <p>AutoSupport OnDemand では、NetApp Support Site に次のファイルをアップロードする新しいメッセージを要求できます "mysupport.netapp.com" :</p> <ul style="list-style-type: none"> • コアダンプ • パフォーマンスアーカイブ

AutoSupportサブシステムの表示

各サブシステムは、AutoSupport がメッセージに使用する基本情報およびトラブルシューティング情報を提供します。各サブシステムはトリガーイベントとも関連付けられており、AutoSupport はトリガーイベントに関連する情報のみをサブシステムから収集できます。

AutoSupportは状況に応じたコンテンツを収集します。

手順

1. サブシステムおよびトリガーイベントに関する情報を表示します。

```
system node autosupport trigger show
```

AutoSupport のサイズ割当量と時間割当量

AutoSupport は、サブシステム別に情報を収集し、各サブシステムのコンテンツにサイズ割当量と時間割当量を適用します。ストレージシステムが拡張すると、AutoSupport の割当量によって AutoSupport のペイロードが制御され、拡張性の高い AutoSupport データの配信が可能になります。

サブシステムのコンテンツがサイズ割当量または時間割当量を超えた場合、AutoSupport は情報の収集を停止し、AutoSupport のコンテンツを切り捨てます。コンテンツを切り捨てるのが容易ではない場合（バイナリファイルなど）、AutoSupport はそのコンテンツを除外します。

デフォルトのサイズ割当量と時間割当量の変更は、ネットアップサポートから指示があった場合にのみ行うようにしてください。を使用して、サブシステムのデフォルトのサイズ割当量と時間割当量を確認することもできます `autosupport manifest show` コマンドを実行します

イベントトリガー型 AutoSupport メッセージで送信されるファイル

イベントトリガー型 AutoSupport メッセージには、AutoSupport でメッセージが生成される原因となったイベントに関連付けられたサブシステムからの基本情報とトラブルシューティング情報のみが含まれています。特定のデータは、ネットアップサポートおよびサポートパートナーによる問題のトラブルシューティングに役立ちます。

AutoSupport では、イベントトリガー型 AutoSupport メッセージの内容の制御に次の基準を使用します。

- 含まれているサブシステム

データは、ログファイルなどの共通サブシステムや、RAID などの特定のサブシステムといったサブシステムにグループ化されます。各イベントは、特定のサブシステムのデータのみを含むメッセージをトリガーします。

- 含まれている各サブシステムの詳細レベル

含まれている各サブシステムのデータは、基本レベルまたはトラブルシューティングレベルで提供されません。

を使用して、考えられるすべてのイベントを表示し、各イベントに関するメッセージにどのサブシステムが含まれているかを確認できます `system node autosupport trigger show` コマンドにを指定します `-instance` パラメータ

各イベントにデフォルトで含まれるサブシステムのほかに、を使用して基本レベルまたはトラブルシューティングレベルでサブシステムを追加できます `system node autosupport trigger modify` コマンドを実行します

AutoSupport メッセージで送信されるログファイルです

AutoSupport メッセージには、ネットアップのテクニカルサポート担当者が最近のシステムアクティビティを確認できる、複数の主要ログファイルを含めることができます。

ログファイルサブシステムが有効になっている場合は、すべてのタイプの AutoSupport メッセージに次のログファイルが含まれる可能性があります。

ログファイル	ファイルから含まれているデータの量
<ul style="list-style-type: none"> • からのログファイル <code>/mroot/etc/log/mlog/</code> ディレクトリ • MESSAGES ログファイル 	<p>最後の AutoSupport メッセージ以降にログに追加された、指定最大数までの新しい行のみこれにより、AutoSupport メッセージに、一意に関連性のあるデータが重複しないようになります。</p> <p>(パートナーからのログファイルは例外です。パートナーについては、最大許容データが含まれます)。</p>
<ul style="list-style-type: none"> • からのログファイル <code>/mroot/etc/log/shelflog/</code> ディレクトリ • からのログファイル <code>/mroot/etc/log/acp/</code> ディレクトリ • Event Management System (EMS ; イベント管理システム) ログデータ 	<p>指定された最大数までの最新のデータ行。</p>

AutoSupport メッセージの内容は、ONTAP のリリースによって変わる場合があります。

週単位の AutoSupport メッセージで送信されるファイル

週単位の AutoSupport メッセージには、追加の設定およびステータスが含まれ、時間の経過に伴うシステム内の変更の追跡に役立ちます。

週単位の AutoSupport メッセージでは、次の情報が送信されます。

- 各サブシステムに関する基本情報
- 選択したの内容 /mroot/etc ディレクトリファイル
- ログファイル
- システム情報を表示するコマンドの出力
- レプリケートされたデータベース（RDB）情報、サービス統計情報などの追加情報

AutoSupport OnDemand がテクニカルサポートから送信指示を取得する仕組み

AutoSupport OnDemand はテクニカルサポートと定期的に通信し、AutoSupport メッセージの送信、再送信、拒否に関する配信指示を取得するとともに、NetApp Support Site に大容量ファイルをアップロードします。AutoSupport OnDemand を使用すると、週単位の AutoSupport ジョブの実行を待たずに AutoSupport メッセージをオンデマンドで送信できます。

AutoSupport OnDemand は、次のコンポーネントで構成されています。

- 各ノードで稼働する AutoSupport OnDemand クライアント
- テクニカルサポートで稼働する AutoSupport OnDemand サービス

AutoSupport OnDemand クライアントは、AutoSupport OnDemand サービスを定期的にポーリングし、テクニカルサポートから送信指示を取得します。たとえば、テクニカルサポートは、AutoSupport OnDemand サービスを使用して、新しい AutoSupport メッセージを生成するよう要求できます。AutoSupport OnDemand クライアントは、AutoSupport OnDemand サービスをポーリングして、配信指示を取得し、要求に応じて新しい AutoSupport メッセージをオンデマンドで送信します。

AutoSupport OnDemand は、デフォルトで有効になっています。ただし、AutoSupport OnDemand がテクニカルサポートとの通信を継続するかどうかは、いくつかの AutoSupport 設定によって決まります。次の要件を満たしている場合、AutoSupport OnDemand はテクニカルサポートと自動的に通信を行います。

- AutoSupport が有効になっている
- AutoSupport は、テクニカルサポートにメッセージを送信するように設定されています。
- AutoSupport は、HTTPS 転送プロトコルを使用するように設定されています。

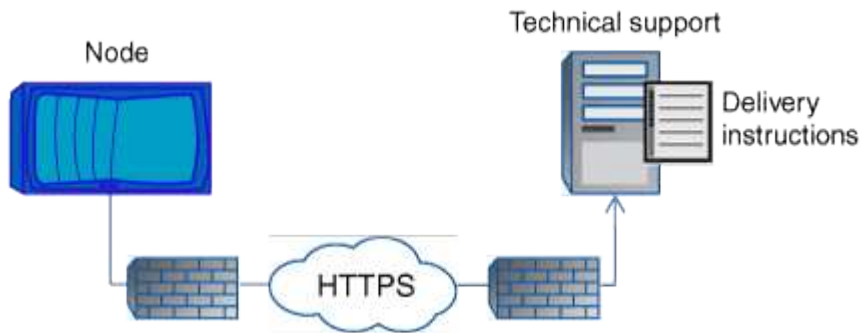
AutoSupport OnDemand クライアントは、AutoSupport メッセージの送信先と同じ場所のテクニカルサポートに HTTPS 要求を送信します。AutoSupport OnDemand クライアントは、着信接続は受け入れません。



AutoSupport OnDemand は、「AutoSupport」ユーザーアカウントを使用してテクニカルサポートと通信します。ONTAP では、このアカウントを削除することはできません。

AutoSupport OnDemand を無効にし、AutoSupport は有効なままにする場合は、次のコマンドを使用します。link : [https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/system-node-autosupport-modify.html#parameters\[system node autosupport modify -ondemand-state disable\]](https://docs.netapp.com/us-en/ontap-cli/system-node-autosupport-modify.html#parameters[system node autosupport modify -ondemand-state disable])。

次の図は、AutoSupport OnDemand がテクニカルサポートに HTTPS 要求を送信して送信指示を取得する方法を示しています。



配信指示には、AutoSupport が行う処理として、次のようなものがあります。

- 新しい AutoSupport メッセージの生成

テクニカルサポートからは、問題の優先度を選別できるように、新たな AutoSupport メッセージが要求されることが

- コアダンプファイルまたはパフォーマンスアーカイブファイルを NetApp Support Site にアップロードする新しい AutoSupport メッセージの生成

問題の優先度を選別できるように、テクニカルサポートからコアダンプファイルまたはパフォーマンスアーカイブファイルを要求されることがあります。

- 以前に生成した AutoSupport メッセージの再送信

この要求は、配信エラーが原因でメッセージが受信されなかった場合に自動的に行われます。

- 特定のトリガーイベントに対する AutoSupport メッセージ配信を無効にします。

テクニカルサポートは、使用されていないデータの配信を無効にすることがあります。

E メールで送信される AutoSupport メッセージの構造

AutoSupport メッセージを E メールで送信すると、メッセージには標準的な件名、簡単な本文、およびデータが含まれた 7z ファイル形式の大きな添付ファイルが含まれます。



プライベートデータを非表示にするように AutoSupport が設定されている場合は、ヘッダー、件名、本文、添付ファイル内のホスト名などの特定の情報が省略されるか、マスクされます。

件名

AutoSupport メカニズムによって送信されたメッセージの件名行には、通知の理由を特定するテキスト文字列が含まれています。件名行の形式は次のとおりです。

HA グループ通知の送信元 `_システム_名前_` (`_メッセージ_`) `_重大度_`

- `System_Name` は、AutoSupport の設定に応じてホスト名またはシステム ID です

ボディ（Body）

AutoSupport メッセージの本文には、次の情報が含まれます。

- メッセージの日付とタイムスタンプ
- メッセージを生成したノード上の ONTAP のバージョン
- メッセージを生成したノードのシステム ID、シリアル番号、およびホスト名
- AutoSupport シーケンス番号
- SNMP の連絡先名と場所（指定されている場合）
- HA パートナーノードのシステム ID とホスト名

添付ファイル

AutoSupport メッセージの重要な情報は、`body.7z` という名前の 7z ファイルに圧縮されたファイルに含まれています。body.7z メッセージに添付されています。

添付ファイルに含まれるファイルは、AutoSupport メッセージのタイプに固有です。

AutoSupport の重大度のタイプ

AutoSupport メッセージには、各メッセージの目的を示す重大度のタイプが設定されます。たとえば、緊急の問題にすぐに対処する場合や、情報提供のみを目的とした場合などです。

メッセージには次のいずれかの重大度が設定されます。

- *** 警告 ***：アラートメッセージは、何らかの処置を行わないと、より高いレベルのイベントが発生する可能性があることを示します。

アラートメッセージに対しては、24 時間以内に対処を行う必要があります。

- *** 緊急 ***：システム停止が発生すると、緊急メッセージが表示されます。

緊急メッセージに対しては、すぐに対処する必要があります。

- *** エラー ***：エラー状態は、無視した場合に発生する可能性がある問題を示します。
- *** 通知 ***：通常の状態だが重要な状態。
- *** 情報 ***：情報メッセージは、問題に関する詳細情報を提供しますが、これは無視してかまいません。
- *** デバッグ ***：デバッグレベルのメッセージには、実行する必要がある手順が記載されています。

社内のサポート部門が AutoSupport メッセージを E メールで受信する場合、重大度は E メールメッセージの件名に表示されます。

AutoSupport メッセージの説明を取得する

受信したAutoSupport メッセージの説明は、ONTAP のSyslog Translatorを使用して参照できます。

手順

1. にアクセスします "Syslog Translator"。
2. [リリース]フィールドに、使用しているONTAP のバージョンを入力します。検索文字列フィールドに「callhome」と入力します。[*平行移動 (Translate)]を選択し
3. Syslog Translatorには、入力したメッセージ文字列に一致するすべてのイベントがアルファベット順に表示されます。

AutoSupport を管理するためのコマンド

を使用します `system node autosupport` AutoSupport の設定を変更または表示したり、以前のAutoSupport メッセージに関する情報を表示したり、AutoSupport メッセージを送信、再送信、またはキャンセルしたりするコマンド。

AutoSupport を設定します

状況	使用するコマンド
AutoSupport メッセージを送信するかどうかを制御します	<code>system node autosupport modify</code> を使用 <code>-state</code> パラメータ
AutoSupport メッセージをテクニカルサポートに送信するかどうかを制御します	<code>system node autosupport modify</code> を使用 <code>-support</code> パラメータ
AutoSupport をセットアップするか、AutoSupport の設定を変更します	<code>system node autosupport modify</code>
個々のトリガーイベントについて、AutoSupport メッセージを社内のサポート部門に送信するかどうかを指定する。また、各トリガーイベントで送信されるメッセージに含める追加のサブシステムレポートを指定する	<code>system node autosupport trigger modify</code>

AutoSupport の設定に関する情報を表示します


状況	使用するコマンド
AutoSupport の設定を表示します	<code>system node autosupport show</code> を使用 <code>-node</code> パラメータ


状況	使用するコマンド
AutoSupport メッセージを受信するすべてのアドレスと URL の概要を表示します	<code>system node autosupport destinations show</code>
個々のトリガーイベントについて社内のサポート部門に送信される AutoSupport メッセージを表示します	<code>system node autosupport trigger show</code>
AutoSupport の設定およびさまざまな宛先への配信のステータスを表示します	<code>system node autosupport check show</code>
AutoSupport の設定およびさまざまな宛先への配信の詳細なステータスを表示します	<code>system node autosupport check show-details</code>

過去の AutoSupport メッセージに関する情報を表示する

状況	使用するコマンド
1 つ以上の最新の 50 件の AutoSupport メッセージに関する情報を表示する	<code>system node autosupport history show</code>
テクニカルサポートサイトまたは指定の URI にコアダンプファイルまたはパフォーマンスアーカイブファイルをアップロードするために生成された最新の AutoSupport メッセージに関する情報を表示します	<code>system node autosupport history show-upload-details</code>
AutoSupport メッセージ内の情報を表示します。メッセージ用に収集された各ファイルの名前とサイズのほか、エラーがある場合はその情報も表示されます	<code>system node autosupport manifest show</code>

AutoSupport メッセージを送信、再送信、またはキャンセルします

状況	使用するコマンド
ローカルに保存されている AutoSupport メッセージを、AutoSupport シーケンス番号で識別して再転送します	<code>system node autosupport history retransmit</code>
 <p>AutoSupport メッセージを再送信し、サポート部門がすでにそのメッセージを受信している場合、サポートシステムは重複するケースを作成しません。一方、サポート部門がそのメッセージを受信しなかった場合、AutoSupport システムはメッセージを分析し、必要に応じてケースを作成します。</p>	

状況	使用するコマンド
テストなどの目的で、AutoSupport メッセージを生成して送信します	<pre>system node autosupport invoke</pre> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-top: 10px;">  <p>を使用します <code>-force</code> AutoSupport が無効な場合でもメッセージを送信するためのパラメータ。を使用します <code>-uri</code> 設定されている宛先ではなく、指定した宛先にメッセージを送信するためのパラメータ。</p> </div>
AutoSupport メッセージをキャンセルします	<pre>system node autosupport history cancel</pre>

関連情報

["ONTAP 9コマンド"](#)

AutoSupport マニフェストに含まれる情報

AutoSupport マニフェストでは、各 AutoSupport メッセージについて収集されるファイルの詳細が表示されます。AutoSupport マニフェストには、AutoSupport が必要なファイルを収集できない場合の収集エラーに関する情報も含まれています。

AutoSupport マニフェストには次の情報が含まれています。

- AutoSupport メッセージのシーケンス番号
- AutoSupport メッセージに含まれている AutoSupport ファイル
- 各ファイルのサイズ (バイト単位)
- AutoSupport マニフェストによる収集のステータス
- 概要が 1 つ以上のファイルの収集に失敗した場合は、エラー AutoSupport

を使用して AutoSupport マニフェストを表示できます `system node autosupport manifest show` コマンドを実行します

AutoSupport マニフェストは、すべての Active IQ メッセージに含まれ、XML 形式で表示されます。つまり、一般的な XML ビューアを使用してメッセージを読んだり、AutoSupport (旧 My AutoSupport) ポータルを使用して表示したりできます。

著作権に関する情報

Copyright © 2024 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および/または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用権を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用権については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。